

美之輝之路

編輯所

冊	番	段	架	類	公爵毛利家文庫
	四			十風	
	一			七	

毛利家文庫	
類	29風 說
番	41
(   )	







別一葉のきざり秋のなごころに  
河原のやもあつて  
根を枯らし

一年前牙痛ひよけり  
日中夜も増し  
食事も減し  
居せ

あつて  
け田舎のまゝ  
業と根を  
よもあつて

よもあつて  
今の中へ  
くは  
もあつて

持より  
なる  
物  
は  
お日  
秋に  
あつて

一ッのほ  
貝と  
あつて  
は  
と  
秋  
も  
あつて

貝  
味  
との  
や  
夏  
も  
あつて  
ま  
ら  
か  
く  
死  
命  
事  
に  
あつて

り  
秋  
も  
あつて  
は  
と  
秋  
も  
あつて

秋  
も  
あつて  
は  
と  
秋  
も  
あつて

秋  
も  
あつて  
は  
と  
秋  
も  
あつて

秋  
も  
あつて  
は  
と  
秋  
も  
あつて

秋  
も  
あつて  
は  
と  
秋  
も  
あつて

秋  
も  
あつて  
は  
と  
秋  
も  
あつて

秋  
も  
あつて  
は  
と  
秋  
も  
あつて



一親交の思ひの申すに... 時と首... 色と能... 是... 世... 家... 女... 家... 何... 何... 何...

... 何... 何... 何...





神くつとあはれくたのるる名集ナミツの國とあはれくつとあはれ  
くつとあはれくたのるる名集ナミツの國とあはれくつとあはれ  
くつとあはれくたのるる名集ナミツの國とあはれくつとあはれ  
くつとあはれくたのるる名集ナミツの國とあはれくつとあはれ  
くつとあはれくたのるる名集ナミツの國とあはれくつとあはれ  
くつとあはれくたのるる名集ナミツの國とあはれくつとあはれ  
くつとあはれくたのるる名集ナミツの國とあはれくつとあはれ  
くつとあはれくたのるる名集ナミツの國とあはれくつとあはれ  
くつとあはれくたのるる名集ナミツの國とあはれくつとあはれ  
くつとあはれくたのるる名集ナミツの國とあはれくつとあはれ

今年コトシの神カミを祀まつるに  
今年コトシの神カミを祀まつるに  
今年コトシの神カミを祀まつるに  
今年コトシの神カミを祀まつるに



一 遊村の流行病ありし時は負と唱へて疫神と稱ひて

は事と止メて一がえとの比のみを著くものなり

一 百老の従ははばと事人を谷ともくすはは女の長女也

ありやみいしは長女の人ともくすしあら

一 武指の年若の若の従は固情の由に飛前が事し其とて

いつせし年若らざる者有皆怪に切支丹家ありん

中は人の國と母のせしとて説きしは事思ひ合はる

つよは世女のお遠方ら若も始と身別自裁し

久しきひのまらあは

一 身別へ行商人をまひて女の形を細くの物

徑に去るよと右の舟に乗り津極をゆり八月末

九月より病の治はのり家ありてあれは病の始

後なるはひしと後多し久伯昨冬に病に治はる



遠賀郡乙丸村衣屋儀平ノ中上ノ日

上ノ日

一 苗村江左ノ浦ニ草束ノ持持ノ日ハ子ノ貝無草

沖上沖用有山好所自及有草束ノ持持ノ貝主

傳傳上ノ持持ノ山右ノ貝持持ノ日及有草束ノ持持

傳傳上ノ持持ノ山右ノ貝持持ノ日及有草束ノ持持

傳傳上ノ持持ノ山右ノ貝持持ノ日及有草束ノ持持

傳傳上ノ持持ノ山右ノ貝持持ノ日及有草束ノ持持

傳傳上ノ持持ノ山右ノ貝持持ノ日及有草束ノ持持

傳傳上ノ持持ノ山右ノ貝持持ノ日及有草束ノ持持

傳傳上ノ持持ノ山右ノ貝持持ノ日及有草束ノ持持

傳傳上ノ持持ノ山右ノ貝持持ノ日及有草束ノ持持

傳傳上ノ持持ノ山右ノ貝持持ノ日及有草束ノ持持

由一海軍部至西持仕日者漢村二四在公長以御江所日親上

七事好の心為四日見はる員にお候事等出何事  
四事好の極心者臣と信とより候事願上旨

寛政九年十二月

乙九村庄屋

保平 卜

坂田新右衛門

以役所

遠賀郡乙九村庄の浦百姓等漢江上候事

以上之覺

一 和家持傳(一)は身合員と存有以保良員と云ふ事申上候事  
江作分利長等中右員に候事、時代持傳(一)は  
味江作分利長等中右員に候事、時代持傳(一)は  
把年久貴庄の浦と申候事、保良員持傳(一)

唐中興下河... 祖... 權... 流...

寛政九年十二月

乙九村... 傳...

坂田新... 所

大坂... 所